夢見ヶ崎動物公園再整備計画骨子

構成

1．夢見ヶ崎動物公園再整備計画の策定の趣旨
1-1　再整備計画策定の趣旨
1-2　位置づけ
1-3　対象区域
1-4　計画期間

2．夢見ヶ崎動物公園の現状
2-1　動物公園の特性
2-2　市民活動・協働
2-3　来園者数
2-4　入園料・収支の状況
2-5　動物園としての機能・役割

3．夢見ヶ崎動物公園の課題
3-1　社会変容による市民ニーズの変化から見える課題
3-2　施設の老朽化や不足による課題
3-3　サービス面の課題
3-4　持続可能な管理運営体制の構築に向けた課題

4．夢見ヶ崎動物公園の再整備の方向性
再整備の方向性：老朽化等により低下した魅力の向上及び
社会変容に伴う市民ニーズ変化等に応じた再整備

5．再整備のイメージ
これまでの歩みと再整備のイメージ

6．再整備の基本的な考え方
6-1　将来像と再整備の方針
6-2　ゾーニング
6-3　飼育動物のこれからの視点

7．コレクションプラン（飼育動物種の継続計画）
7-1　コレクションプランの考え方
7-2　コレクションプラン案

8．各施設の整備計画
8-1　既存施設の整備と導入施設
8-2　整備スケジュール
8-3　段階的整備の考え方

9．再整備の進め方
9-1　管理運営手法の検討
9-2　事業スケジュール

夢見ヶ崎動物公園再整備計画骨子

1．夢見ヶ崎動物公園再整備計画の策定の趣旨

1-1 再整備計画策定の趣旨

夢見ヶ崎動物公園は樹林に囲まれた標高35mの加瀬山に位置します。広場、動物、植物、古墳などの歴史資源を有する地区公園です。

平成30年3月に策定された『夢見ヶ崎動物公園基本計画』では、公園の特色を活かしながら、幅広い世代・分野の人々がつながり、いきものへの理解を通じて命の大切さや生物の多様性と恩恵を学び、地域に愛され、賑わいをもたらす持続可能な夢見ヶ崎動物公園の実現を目指して、将来像や基本コンセプト等を定めています。

近年では新型コロナウイルス感染症による影響や脱炭素社会実現に向けた取組、オープンスペースの多様な利活用ニーズの高まりなど、様々な社会変容が見られたことから、令和4年8月に「夢見ヶ崎動物公園再整備の基本的な考え方」を示し、再整備の内容の見直しも行っています。

本再整備計画骨子（案）は、基本計画の将来像やコンセプトに基づくものとし、新たなニーズ等を加えた**施設整備の方針や具体的な整備内容**、持続可能な動物公園の**管理運営の仕組み**、さらには事業全体の**スケジュール**等を定めたものです。

これまでの検討経過等

年度	～R3（～2021）	R4（2022）	R5（2023）	R6（2024）	R7（2025）	R8（2026）	R9（2027）	R10（2028）
再整備に係る取組・検討	H30年3月 夢見ヶ崎動物公園基本計画 → R7年度～ 夢見ヶ崎動物公園再整備計画							
	R2 主要課題調整 先行整備のイメージ、飼育種数適正化に向けた考え方等を整理	R4 再整備の基本的な考え方 / かわさき市民アンケート	来園者アンケート	かわさきフェア	かわさきフェア			
			来園者の利便性向上等に資する施設整備 ・パークセンター ・中央エリア ・東側エリア ・動物舎					
			再整備に係る検討 ・コレクションプラン ・アニマルウェルフェア※へ配慮した施設配置 ・市民や民間事業者との協働　等					

※アニマルウェルフェア：飼育および展示における個々の動物の身体的および心理的状態のことをいう。JAZA（日本動物園水族館協会）では、動物に対して、他法令で定義のある「福祉」の語を用いることについてさまざまな議論があることを踏まえ、各種規程等にある「動物福祉」を「アニマルウェルフェア」に置き換えるよう方針を転換している。このため、骨子についても同様の対応とする。

1-2 位置づけ

本計画は夢見ヶ崎動物公園基本計画をはじめとする関連計画との整合を図りながら策定するものとします。本市の関連計画との関係性を次に示します。

上位関連計画

- 川崎市総合計画
- 川崎市緑の基本計画

↕

夢見ヶ崎動物公園再整備計画
- 整備方針
- 整備内容
- スケジュール、事業費

夢見ヶ崎動物公園基本計画（H30）
- 将来像、コンセプト等

夢見ヶ崎動物公園再整備の基本的な考え方（R4）
- 整備の考え方の整理

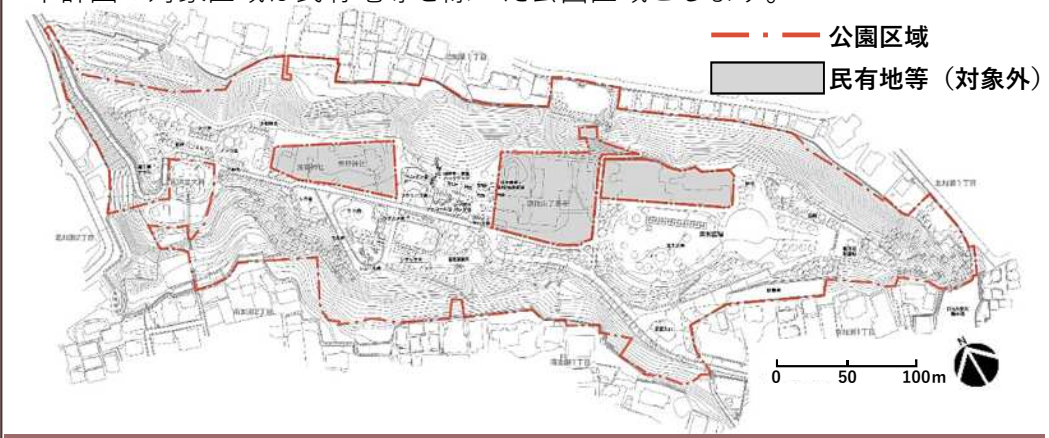
↔

その他関連計画等
- 希少野生動植物種保存基本方針
- 神奈川県鳥獣保護管理事業計画
- 川崎市文化財保存活用地域計画
- 新・かわさき観光振興プラン
- 生物多様性かわさき戦略
- 川崎市環境教育・学習アクションプログラム

主な関係法令
- 都市公園法
- 獣医療法
- 動物愛護管理法
- 種の保存法
- 鳥獣保護法　等

1-3 対象区域

本計画の対象区域は民有地等を除いた公園区域とします。



1-4 計画期間

再整備計画の**対象期間は、計画策定から概ね10年（仮）**としますが、飼育動物の寿命等を鑑み柔軟に対応する必要があります。

夢見ヶ崎動物公園再整備計画骨子

2．夢見ヶ崎動物公園の現状

2-1 動物公園の特性

昭和25年に開設され、昭和47年に動物の飼育・展示を開始しました。
標高35m の丘陵地（加瀬山）に立地し、平坦な市街地に浮かび上がる緑の島のようになっています。公園・動物園・里山樹林の３つのエリアから構成され、多様な特性を有します。

・外周斜面は里山樹林（まとまった緑）
・市内唯一の動物公園
・鳥獣保護区に指定
・春はお花見スポット
・富士見デッキ等からまちを一望できる（天気が良ければ富士山が見える）
・幸区市民健康の森に指定
・古墳、国宝「秋草文壺」の出土、太田道灌、戦時中の土取り工事、戦没者慰霊塔など歴史的資源が豊富
・敷地内の社寺などの民有地と共存

JR新川崎駅付近から見た公園

公園内の古墳

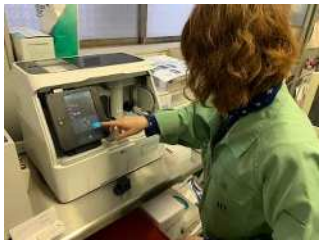
2-2 市民活動・協働

地域住民に愛され、多様な主体による活動が行われています。

周辺の商店街の活動 ・動物や太田道灌のグッズ制作・販売 ・ゆめみ車マルシェ（キッチンカー出店）	**ゆめみらい交流会** 地域住民や企業などによる夢見を核とした地域コミュニティ活性のための意見交流会	**さいわい加瀬山の会** ・樹木剪定、草刈り、花壇整備等の維持管理活動や交流活動 ・活動継続20年以上
野生動物リハビリテーター 傷病野生動物の保護に関する活動を行うボランティア	**サポーター制度** 夢見の魅力をさらに向上させるための市民や民間企業からの支援・寄附制度	**クラウドファンディング** 令和4年に実施し約400人から約600万円の支援

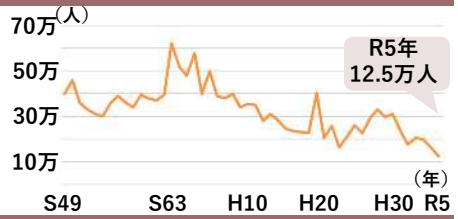
さいわい加瀬山の会の活動

サポーターの支援活動


クラウドファンディングで購入した医療機器

2-3 来園者数

ピーク時（昭和63年）は60万人を超えていました。近年は10～20万人程度で推移しています。花見など春の行楽シーズン（3～5月）及び秋の行楽シーズン（9～11月）に来園者数が増加する傾向にあります。



2-4 入園料・収支の状況

園内に社寺等の民有地や５箇所の出入り口があり、動物園エリアを閉鎖して管理することが難しく、入園無料で運営してきた経緯があります。
過去５年間（平成30～令和4年度）の平均収入額は、一時使用料などにより約14万2千円、平均支出額は人件費、飼料、維持・修繕などにより約１億5千万円で推移しています。

2-5 動物園としての機能・役割

次にあげる動物園の４つの社会的機能※に対して夢見ヶ崎動物公園はその役割を果たす取組を行っています（一部抜粋）。
※（公社）日本動物園水族館協会（以下、JAZA）発行『改訂版新・飼育ハンドブック動物園編　第3集』より

①「種の保存・野生生物保全」
・レッサーパンダなど国際希少野生動物の飼育・繁殖
・JAZAにおけるハートマンヤマシマウマ及びパラワンコクジャクの国内血統登録担当動物園としての役割
・獣医師会やＮＰＯ等との連携による傷病鳥獣の保護受け入れ

②「教育・環境教育」
・動物園についての講義、職業講和
・サマースクール、職業体験、インターンシップ、専門学校・大学の実習、野生動物リハビリテーターの実習受け入れ
・動物の生態や加瀬山の自然に関する情報発信（ゆめみにゅーす、Facebook、 X（旧Twitter）等）

③「調査・研究」
・診療技術について大学研究室との共同研究
・海外の都市からの動物の寄贈受け入れ、動物の交換

④「レクリエーション」
・動物の姿、行動を間近で楽しめる場の提供
・動物の誕生等の明るい話題の提供
・動物園まつり等イベントの実施

動物園まつりの様子

夢見ヶ崎動物公園再整備計画骨子

3．夢見ヶ崎動物公園の課題

開園から70年以上が経過し、公園施設の老朽化に加え周辺環境の変化や**社会変容による市民ニーズの変化**、暑熱対策等への対応が必要となっています。

3-1 社会変容による市民ニーズの変化から見える課題（市民意見・民間事業者意見の調査）

近年では新型コロナウイルス感染症による影響や、オープンスペースの多様な利活用ニーズの高まり、さらにはアニマルウェルフェアに対する意識の高まりなど様々な社会変容が見られました。動物公園に対する課題やニーズを把握するため、市民や民間事業者からの意見を収集しました。

①かわさき市民アンケート（R4年度/有効回収数=1,556）

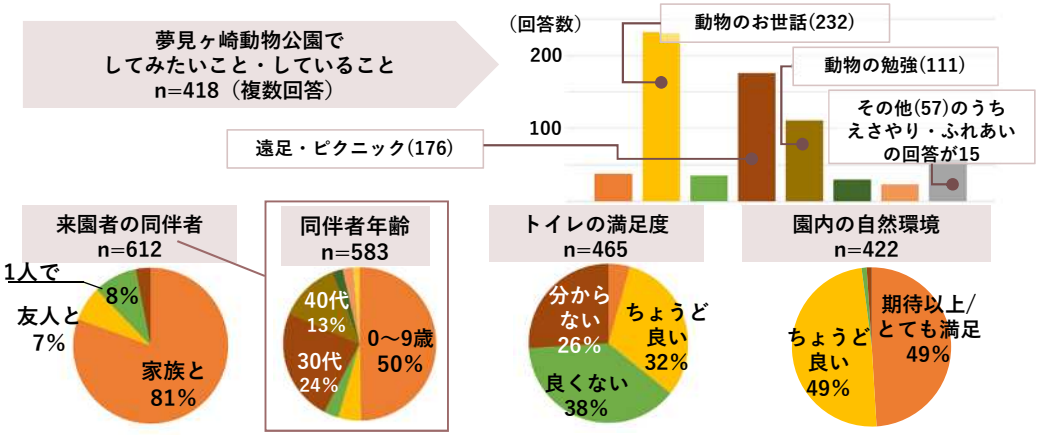
【対象】川崎市在住の満18歳以上の個人（郵送・R4年11月）

・コロナ禍では近隣の動物園よりも夢見に訪れた人が多かった
　⇒**“身近さ” が魅力**
・動物の飼育に関心があり、**動物の健康・施設の向上**を望んでいる
・賑やかさよりは**落ち着いた雰囲気**が求められる

②来園者アンケート（R5年度/回答数＝619）

【対象】来園者（R5年11月）

・10歳未満のこどもを連れた子育て世代の来園者が多い
・約8割が2時間以内の滞在時間　⇒**“気軽さ”が魅力**
・園内の**自然環境・散歩のしやすさ**のほか、**動物公園全体**の**満足度が高い**
・**トイレ**について**“良くない”**が約4割
・動物園のメジャーな種の他、ウサギ等の**人と距離の近い動物**、タヌキ等の**身近な野生動物が人気**で、**動物に関連したプログラム**への関心が高い



③民間事業者との対話・意見収集（H30年度～継続的に実施）

・**Park-PFIの導入は難しい**（立地や採算面から）
・不安定な社会情勢による**民間事業者の体力不足**
・**公益的な役割**と**収益**機能の**折り合い**が課題
・駐車台数の増加は可能。**インセンティブを見込めると良い**

3-2 施設の老朽化や不足による課題

多くの施設で老朽化や、多様なニーズへ対応した整備が必要となっています。

・利便施設の不足（多目的トイレや授乳室等）
・園内のバリアフリー化（樹木の生長による公園の機能面への影響）
・動物展示の魅力低下、アニマルウェルフェアに配慮した飼育環境の創出
・駐輪場や駐車場のあり方の検討の必要性

根上がりによる園路の不陸

樹木による眺望の妨げ

閉店している売店

動物舎の老朽化

3-3 サービス面の課題

動物を介した体験プログラムは動物園まつり等のイベント時に実施するのみであり、また、加瀬山の自然や歴史を体験・体感できるプログラムも不足しています。来園者へのサービス面において、**動物公園の特長を生かし、多様な主体と協働した取組を充実させる**必要があります。

・動物園の４つの機能のうち**「教育・環境教育」「レクリエーション」に関する公益的なサービスの充実**
・地域との協働のポテンシャルを生かしたイベントやプログラムの充実
・加瀬山の様々な文化財の保存、活用と魅力発信事業の充実

3-4 持続可能な管理運営体制の構築に向けた課題

動物公園の魅力を維持しながら持続的な管理運営をしていくために、次のような課題へ対応する必要があります。

①動物の飼育方針・飼育環境改善

・一部の動物種の高齢化や近親交配、他園館との動物の導入・搬出調整に係る困難さなどの課題に対し**動物園を継続し、種の保存や調査・研究に貢献**していく上で必要な飼育動物種の継続計画（コレクションプラン）の作成
・魅力的な展示及び動物の生活環境の改善（環境エンリッチメント等）

②人材育成

・動物飼育に関わる専門性の高い業務・知識のノウハウの継承
・高い接遇スキルやレクリエーションの運営力（多様なニーズへの対応、サービスの質の向上）

③持続可能な管理運営体制の構築と新たな財源確保

・持続可能な管理運営のための新たな財源の確保、業務の効率化等

夢見ヶ崎動物公園再整備計画骨子

4．夢見ヶ崎動物公園の再整備の方向性

動物公園の特性や課題・ニーズの把握を踏まえ、３つの視点をもとに再整備の方向性を整理します。

再整備の方向性：老朽化等により低下した魅力の向上及び社会変容に伴う市民ニーズの変化等に応じた再整備

オープンスペースの利用の多様化、持続可能な管理運営の仕組み、アニマルウェルフェアや環境への配慮等の視点を踏まえた整備を進めます

利用者の利便性やサービス向上のための整備

・売店や動物グッズ等の物販機能の検討
・動物を身近に感じる体験及び加瀬山の歴史を活かしたプログラム等特色のある機能や施設の導入検討（サービスや機能向上のため一部有料化の検討）

多様な主体が関わる持続可能な管理運営の仕組みの構築

・民間事業者や地域の方との協働の可能性や役割分担等の検討

アニマルウェルフェアに配慮した飼育環境の改善と展示空間の整備

動物種の飼育方針の整理　適切な面積・設備の検討　魅力的な展示

視点①：魅力向上の視点

再整備に向けた検討を進めながら、魅力向上等の支障となっている一部の施設の整備を行います。
サービス向上のための施設整備は、市民や来園者、地域で活動をされる方々のニーズを丁寧に把握しながら進めます。現在、休憩室や授乳室等の必要最低限の整備は先行して進めています。

先行整備の取組

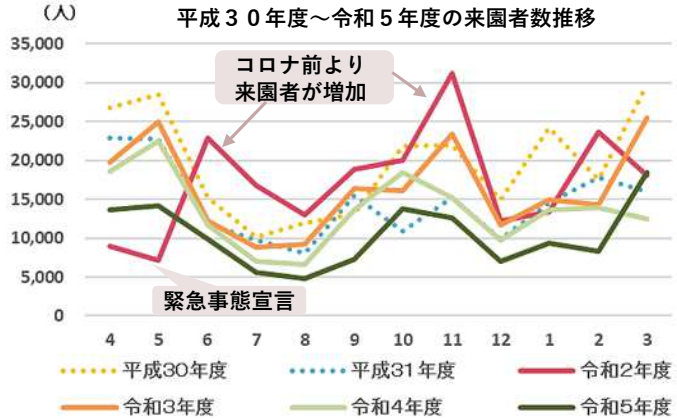
来園者の利便性向上等に資する施設整備として、多目的室や授乳室、多機能トイレ等を備えたパークセンターの新設、東側公園エリアの園路バリアフリー化、動物舎の一部補修とサイン改修等を先行して進めています。

パークセンター
（イメージ図）

アンケートでも満足度が低かった
トイレの整備（イメージ図）

動物舎の柵や看板の整備
（看板は川崎総合科学高校のデザイン）

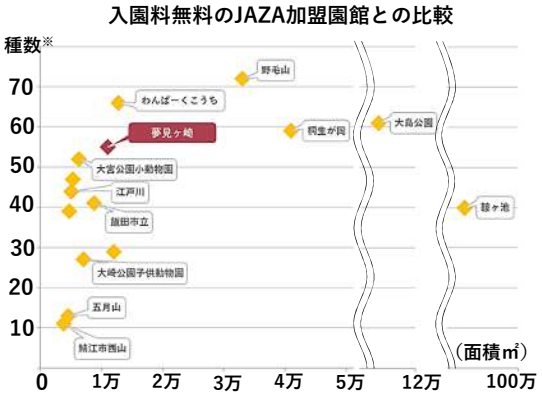
視点②：地区公園のオープンスペースの視点

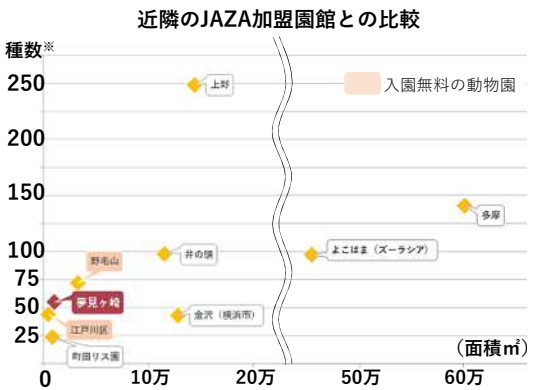


公園の利用効果	休息・休養 子どもの健全な育成 コミュニティ活動等
公園の存在効果	精神的健康 地域ブランドへの貢献 生物の生息環境等

コロナ禍では、ゆとりあるオープンスペースとして公園の価値が見直され、本動物公園においても来園者数がコロナ禍以前より増加した時期がありました。子どもの遊び、大人の健康増進やリフレッシュといった、公園にあるべき機能や効果を備え、来園者が快適に利用できる開かれた空間を保ちます。

視点③：アニマルウェルフェアの視点





※令和４年度日本動物園水族館年報をもとに、種数は哺乳類・鳥類・爬虫類の合計で作成
※夢見ヶ崎動物公園の動物園部分の敷地面積は11,000㎡として計算

本動物公園は、入園無料の動物園の中では飼育種数が多い傾向にあります。近隣の動物園と比較すると、規模は小さいですが飼育種数は少なくないことが分かります。動物園の敷地規模としては無料の動物園として平均的な大きさですが、アニマルウェルフェアの視点から、それぞれの動物種の飼育面積や施設、環境等が適切であるか検討を行います。

夢見ヶ崎動物公園再整備計画骨子

5．再整備のイメージ

これまでの歩みと再整備のイメージ

これまで本動物公園が果たしてきた役割と新たなニーズを踏まえ、基本計画に示した将来像「わくわく ふれあい みんなでつくる動物公園」に向かって**「いのちを感じる」**取組を進めます。これまでの歩みと再整備後における利用イメージの例を以下に示します。

紀元前

S25（1950）

S47（1972）

再整備の取組スタート

●加瀬山の歴史
緑の島、秋草文壺、古墳、寺社、太田道灌の伝説…

●都市公園としての歩み
市民と共に守り育てる緑、やすらぎとにぎわい

●動物展示の開始
種の保存、野生傷病動物の保護、研究と教育活動、生命の実感

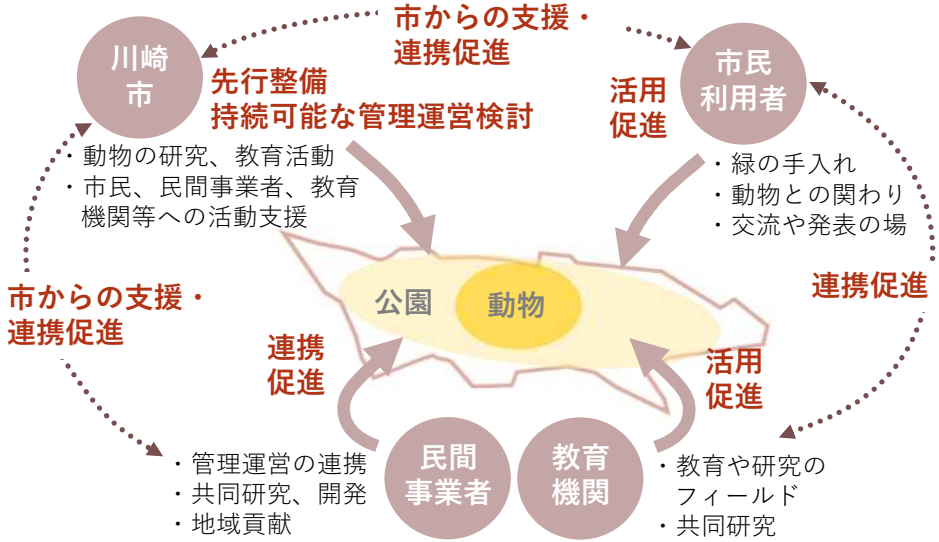
●動物公園50周年
パークセンター完成

再整備で強化する取組軸

目指すべき将来像
“わくわく ふれあい みんなでつくる 動物公園”

五感で感じる「いのち」の意義
動物を知る・動物を好きになる・動物に関わる。五感すべてを使って、いのちを感じることで、こどもの健やかな心の成長に貢献し、他者への尊重や共生への意識を育みます。

“みんなでつくる” 再整備後の利用イメージ



“わくわく ふれあい” 再整備後の利用イメージ

①まさか！のサービスの充実
動物や自然を五感でとらえ
まさか！という驚きとともにいのちを体感

③パークサービスのデリバリー
帰った後も心に残る・来園しなくても
わくわくできる、広域的な効果の発揮

②子どもの成長・チャレンジを応援
動物や植物のお世話、クラブ活動などで
いのちや自然を守る活動に参加

④職員と動物の“絆” 職員同士、職員と動物の信頼関係、日々動物へ愛情を持って接する職員の奮闘ぶりを伝える

来た時のわくわく 体感　心に残るわくわく 実践　遠くにいてもわくわく 共感

夢見ヶ崎動物公園再整備計画骨子

6．再整備計画の基本的な考え方

6-1 将来像と再整備の方針

これまでの検討から、夢見ヶ崎動物公園は身近で気軽な動物公園であり、市民それぞれのニーズを満たす動物公園であると言えます。また、野生動物に会えるという**非日常性を有し、**記憶に残りつづけ**地域住民に愛される動物公園**です。それら**魅力の「多様性」を強み**として次の将来像・理念をもとに再整備の方針を設定します。

将来像　**わくわく　ふれあい　みんなでつくる動物公園**

理念

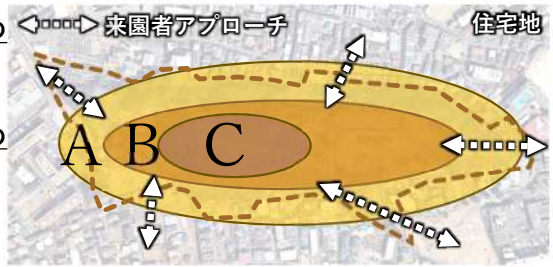
- 加瀬山の豊かな自然環境や歴史を活かし、また、野生傷病鳥獣の保護と野生復帰に向けた活動を続けることにより、**環境保全と地域社会との共生について人々に伝えます。**
- 動物との関わりから、**命の尊さや他者への思いやり等の自分ごと化を促します。**
- 野生動物と実際に対峙し、向き合うことにより、地球温暖化や森林破壊等の**環境問題への深い関心を育みます。**
- 来園する人々の**心と体の健康を増進**し、いきいきとした**他者との交流・自己実現のための活動を促進**します。
- **「多様ないのちを感じる」動物公園であり続けます。**

立地特性の整理

特性と役割の整理

- A　加瀬山の豊かな樹林地・鳥獣保護区 等　**緑と人の出会い**
- B　加瀬山上部の平坦なスペース 交流・レクリエーション・散歩 等　**人と人の出会い**
- C　動物と出会える非日常的な空間　**人と生き物の出会い**

立地特性（構造）　模式図

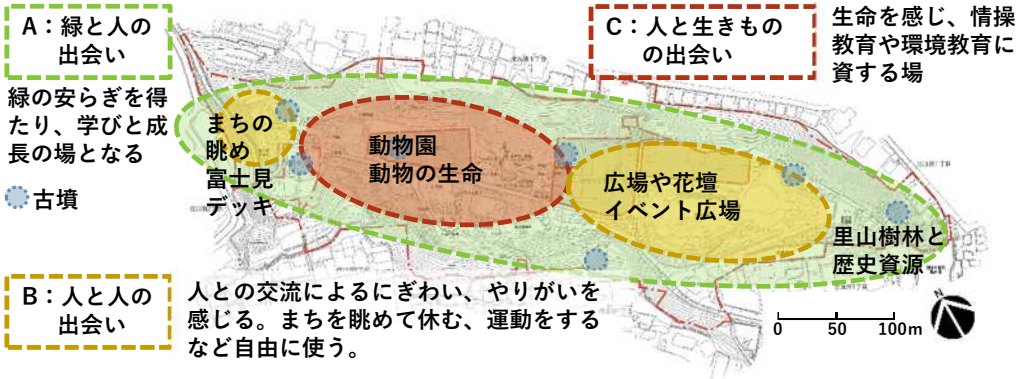


再整備の方針

A	緑と人の出会い	土地の記憶としての自然の営みと人の営みを体感できる
B	人と人の出会い	他者との交流から自分を知り、協調・協働するすべを考えられる
C	人と生きものの出会い	生きものとの関わりを通して、心の安らぎを得るとともに、命の尊さや喜び、他者への思いやり等を学ぶことができる

6-2 ゾーニング

過去から親しまれている風景を残しつつ、鑑賞や利用のしやすさ・職員動線の効率化を図ることで空間ポテンシャルを高めていくため、動物園と公園の配置は**現状通り集約型を基本**とします。そして、動物園と公園が樹林エリアと有機的につながり、自然と歴史を活かした動物公園を目指します。



6-3 飼育動物のこれからの視点

動物を飼育・保護する役割を担う以上、**動物公園を次の100年も継続していくため**には、一般的な公園における施設の長寿命化とは異なり、飼育動物の血統や寿命等を考慮した**繁殖・調整・導入を計画的に行う**とともに、これらの種の５つの領域（栄養、環境、行動、健康、精神）に可能な限り応えられる施設・環境整備を進めていく必要があります。

また、「５．再整備のイメージ」に示すとおり、動物を知り、関わり、好きになってもらうことで、子どもの成長や、来園者の心身の健康に貢献する取組を充実させるために必要な施設・環境整備も合わせて進めていきます。

今後飼育していく種の計画作成

計画の視点
- ▶血統や寿命
- ▶環境教育、情操教育等の教育的価値
- ▶動物を介在した取組への発展

支える

今後飼育していく種のニーズを満たすことのできる施設整備

飼育動物の計画と施設整備の視点の例

乗馬体験

動物を好きになってもらうプログラムが実施できる動物種・施設整備の検討

保護鳥獣のリハビリ

いのちを守る取組を伝え、市民の参加を促進する施設整備（動物保護施設の充実等）

夢見ヶ崎動物公園再整備計画骨子

7．コレクションプラン（飼育動物種の継続計画）

7-1 コレクションプランの考え方

飼育している一部の動物種において高齢化や近親交配が進み、今後の繁殖が困難と考えられる動物種も存在します。**持続可能かつアニマルウェルフェアに配慮した飼育体制を確保し、今後も動物園としての役割を果たす**ために、飼育動物種の継続計画「コレクションプラン」を策定します。

コレクションプランは、教育的価値など動物公園の**将来像を踏まえた視点**、動物の特性や他の動物園の動向などを踏まえた**専門的な視点**、人気の動物種など**客観的な視点**から総合的に判断します。また、飼育動物種数・個体数の動態を踏まえ、必要に応じて数年おきに更新します。

多様性の発揮・教育的価値など

将来像を踏まえた視点

3つの視点のバランスを重視した
コレクションプラン

専門的視点

動物特性と他園館の動向、有識者の意見など（動物種の生態、希少性、繁殖可能性、JAZAのコレクションプランへの準拠など）

客観的視点

レッサーパンダ・ペンギン等の人気の種や体験プログラムの市民ニーズに対応できる種、文献等による動物の生態調査

7-2 コレクションプラン

「6-3 飼育動物のこれからの視点」を踏まえ、飼育環境の充実や、五感を活用した体験プログラム等を可能とするために、現在の飼育動物の繁殖・調整を進めていきます。将来的に**計28種程度を継続して飼育する方針**としますが、動物園としての魅力増進や来園者ニーズへの対応のため、**新しい種の導入も継続的に検討**します。

	分類	該当種数	考え方
飼育を継続する種 ＝ 28種	推進種	19種	種の保存への貢献その他これまでの実績等を勘案し、積極的に個体の導入・繁殖に取り組み飼育を継続する クロシロエリマキキツネザル、パラワンコクジャク…
	維持種	9種	状況に応じて個体の導入・繁殖を検討しながら飼育を継続する シセンレッサーパンダ、チリーフラミンゴ、ヤギ…
現飼育個体をもって飼育を終了する種	調整種	18種	繁殖や新規導入が困難な種・または他の希少種などとの飼育スペース等の調整のため繁殖を行わない ハートマンヤマシマウマ、ヨウム、ケヅメリクガメ…
	対象外	6種	野生保護種であり、飼育種としての定着を想定しない ホンドタヌキ、オオタカ…
新規に導入する種	導入種	検討	魅力増進や来園者ニーズに対応できる種（家畜種等）

※コレクションプランは、社会情勢や飼育個体の保全状況等を踏まえ必要に応じて柔軟に見直します。

コレクションプランに基づく取組

分類・取組	内容	該当動物種の一例
推進種 維持種 種の保存に向けた取組 動物園として果たす役割 ➢ 種の保存・野生生物保全 ➢ 調査・研究	絶滅危惧種等、開発や環境破壊により生息地が減少している動物の生息域外保全として種の保存・生物多様性の実現に貢献する 関連する市の施策：生物多様性かわさき戦略 等 欄外参考①・②参照	クロシロエリマキキツネザル CR JSMP ホウシャガメ CR JSMP ワタボウシパンシェ CR JSMP
推進種 維持種 ＋ 導入種 情操教育に向けた取組 動物園として果たす役割 ➢ 教育・環境教育 ➢ レクリエーション	・五感を使って動物とふれあうことで、生命を尊び、社会性を学び、環境の保全に寄与する態度を養う「情操教育」の効果が期待できる ・家畜は古くから人との関わりが強く人を恐れにくいため、より近くで観察、学習することが可能 ・ホンシュウジカなど日本の里山に生息し、人と野生動物の関わり方（有害獣としての駆除）を学ぶ 関連する市の施策：川崎市環境教育・学習アクションプログラム 等	ワオキツネザル 動きの視覚的効果、環境破壊への意識等 EN 維持 フンボルトペンギン ペアでの子育て・群れでの行動等教育的効果 VU JSMP ヤギ 人との距離の近さ、動物との関わり方の学習への効果等 ホンシュウジカ 日本の里山管理への意識、野生動物との関わり方の学習への効果等
調整種 終生飼養に向けた飼育環境の維持向上	・種の希少性や個体の状況等を勘案し、一部の種については他の種の飼育スペース確保のため繁殖させず終生飼養する ・園内で繁殖ができず、国内の他園館からの導入も困難な種（血統が近い個体しかいない・個体数が少ない等）は現個体の終生飼養後に飼育を終了する ・アニマルウェルフェアに配慮した、健全な飼育・展示環境の維持向上に努める	シロビタイムジオウム 個体の性格や他のインコ科の希少種の福祉向上のため継続しない NT JSB ハートマンヤマシマウマ 国内飼育頭数が少なく、繁殖ができても血統の近い繁殖子となる VU 維持 ヨウム 繁殖させるためのオス個体の他園館からの導入が困難 EN JSB

参考①：国際自然保護連盟（IUCN）による動物種のレッドリスト分類（絶滅の危険性）

高 ◀ CR（深刻な危機） EN（危機） VU（危急） NT（準絶滅危惧） LC（低懸念） ▶ 低

参考②：JAZAのコレクションプランで指定されている種（2024年1月5日時点）

JSMP（管理種） JSB（登録種） 維持（維持種）

夢見ヶ崎動物公園再整備計画骨子

8．各施設の整備計画

8-1 既存施設の整備と導入施設

再整備の方針・整備目標をもとに、動物公園の果たすべき役割に対して必要な施設について整理します。多くの動物舎は設置から長い年月が経過しているため、**劣化状況や健全度により修繕や建替え等の必要性を検討**します。また、**新たな機能として導入する施設について必要性を検討**します。

パークセンターの建て替え

地産木材（オリンピックレガシー材）を活用した休憩施設（山形市西公園）

動物を身近に感じられる施設（埼玉県こども動物自然公園）

分類	エリア	対象	対応・機能等
既存施設	公園	パークセンター、東側広場のトイレ	先行整備（R5～6年度）
		展望台	先行整備（R5年度）
	動物園	シマウマ舎、レッサーパンダ舎、動物病院（新）	補修や増築により展示の魅力向上、アニマルウェルフェアの向上
		上記以外の動物舎、動物病院（旧）、バックヤード等	耐用年数の超過・アニマルウェルフェア向上・展示の魅力向上のため建替えを検討
新たに機能を付加・導入する施設	公園	広場、休憩施設、遊具など	動物公園の魅力向上、利便性の向上を目指す
	動物園	傷病野生動物の保護施設、作業用・隔離用等のスペース、動物を介した体験プログラムができる施設	生物多様性、環境教育や情操教育への貢献を目指す

既存施設の転用も考慮

コレクションプランの動物種について、**アニマルウェルフェアに配慮した目標飼育頭数を設定**し、さらに飼育頭数に応じた**動物舎の目標面積を設定**します。

コレクションプラン
↓
飼育頭数の設定
↓
動物舎面積の設定

視点
- JAZA適正施設ガイドラインとの適合
- 過年度検討、報告書などの内容整理
- 他都市動物園の整備事例の調査
- 動物公園職員へのヒアリング

8-2 整備スケジュール

整備は直近5年間の視点に加え、中長期的な視点も踏まえて行います。

整備開始～5年間の視点	飼育環境や魅力を向上させる整備	サル舎・インコ舎・小動物及び家畜舎・バックヤード等
中・長期的視点	動物飼育状況に応じた整備	・新しい動物の導入検討、パドックの広場への転用等 ・飼育を終了する種の将来的な動物舎の活用方法の検討 ・効果的・効率的な管理運営を見据えた機能拡張

8-3 段階的整備の考え方

- **整備に伴う動物の退避スペースは仮設せず**、アニマルウェルフェアの観点も踏まえ、空いている動物舎やスペースを活用しながら**段階的に整備を行い**、**移動による動物への負担と職員の安全を考慮**した計画とします。
- 動物は生き物のため、工事に伴う騒音や移動が飼育動物に極力影響を及ぼさないような整備方法及び種や個体の状況に応じた施設配置を検討します。
- 動物の移動には細心の注意を払い、**種や個体の特性に応じて移動方法や移動距離を考慮**した施設配置計画を立てます。
- **バックヤードについては**、各動物舎の配置計画と連動し、**職員等の移動しやすい動線・働きやすい施設配置を考慮**します。
- コレクションプランや動物の飼育状況等を踏まえ、中長期的な視点で将来的な動物舎やスペースの活用なども検討します。
- 段階的に動物舎の整備を進めることで、**開園しながらの整備**を可能とし、来園者の日々の利用・活動への影響も極力抑えた整備計画を検討します。

動物種の特性に合わせた移動・施設配置計画の進め方（例）

建築物の建替・補修の検討 ▶ 移動に危険が伴う動物の特定 ▶ 移動手法の検討 ▶ 整備順序の検討 施設配置の検討

- 大型動物
- 角や爪などが危険な動物
- 病気やケガの状況等

- ケージ
- 輸送箱 等

空きスペースや工事期間の確認

今後の検討

動物及び飼育職員・来園者の安全性確保、**アニマルウェルフェアへの配慮**、動物の暑熱対策、感染症への対応、観覧施設の向上等について、必要な設備を継続的に検討します。

- 動物飼育管理に重要な設備（逸走防止の二重柵、安全な飼育のための構造等）
- 動物舎の設備（冷暖房、紫外線ランプ、動物が人の視線から隠れられる場所の確保、パズルのような給餌機（フィーダー）等野生動物本来の行動の誘発（環境エンリッチメント）等）
- 鳥インフルエンザ等動物感染症への対応（退避施設や屋内施設の新設検討等）
- 観覧施設の向上（日除け、視認性の向上等）

逸走防止の二重柵
（福岡市国営海の中道海浜公園・動物の森）

夢見ヶ崎動物公園再整備計画骨子

9．再整備の進め方

9-1 管理運営手法の検討

地域住民にも身近な憩いの場であるという特長を活かしながら、持続可能な管理運営を行うための手法を検討します。

夢見ヶ崎動物公園は、サポーターや地域の方々の様々な支援や活動により運営してきた経緯があります。動物園としての役割を維持するためには**「全てを民に委ねる」のではなく**、サービス向上を目指し、より愛される動物公園となるよう、これまでに培ってきたノウハウに基づき、事業者や地域の方々と**「協働で共に育てていく」官民パートナーシップ**を目指します。

管理運営の対象・制度・手法の整理

制度や手法には、主要なものと付加的なものがあり、対象には、獣医、飼育、施設や植栽、駐車場等があります。各対象に適する制度・手法の組み合わせについて、以下の案を基に、民間パートナー等と対話をしながら検討を進めます。

対象		内容	役割分担（案）
動物園	獣医業務	動物治療・獣医学的措置、動物のコレクションプラン、動物収集及び傷病鳥獣の保護・野生復帰	市
	飼育業務等	動物飼育業務、公園施設維持管理、安全確保、公園ブランド構築、プログラム実施、営業、接客サービス等	民間パートナー（協働）
公園	植栽・施設管理	植栽や施設の管理、安全確保等	引き続き検討
	駐車場	駐車場の管理、運営等（予約制の検討を含む）	民間パートナー

動物園の機能

- 種の保存
- 教育・環境教育
- 調査・研究
- レクリエーション

民間と協働で強化する

動物園の社会的機能

- **種の保存と調査・研究**（高い専門性・将来像との整合等）→ **市の責任で行う**
- **教育・環境教育とレクリエーション**（プログラムの企画運営 接遇の向上等）→ **民間のノウハウを活用する**
- **公園の機能**（植栽と施設管理の向上 既存の市民活動支援 駐車場の区画整理や利便性向上）→ **民間のノウハウを活用する**

→ **市民サービス向上**

アニマルウェルフェアの向上

動物園の魅力と価値向上

継続していくために一部有料の施設やプログラムの導入を検討

今後の検討

- 「クラウドファンディング」「サポーター制度の拡充」「寄附」「ネーミングライツ」等の**付加的な官民連携の手法について、効果的に実施**します。
- 公園管理の協働として、飼料等の調達の連携、広報活動、パークセンター内での販売などの**協働の可能性を引き続き検討**します。
- 飼育業務関連のDX化、自動給餌機等の導入等の**新技術を適宜検討**し、アニマルウェルフェアの向上や、より効率的な管理運営を目指します。
- 自然災害、高病原性鳥インフルエンザの発生等、**有事の際においても飼育管理業務を継続的に行うことができる設備や体制の確保を検討**します。
- 有料体験プログラムの導入や駐車場料金の有料化について、動物飼育等に還元できる、**持続可能な経営の視点を踏まえた仕組みを検討**します。
- 動物介在教育を公共サービスとして提供することの妥当性を踏まえ、**動物を介した体験プログラムの充実を検討**します。

9-2 事業スケジュール

再整備計画を令和7年度に策定し、令和8年度から整備に向けた基本設計等の取組を進めます。**民間パートナーとの協働は令和9年度からを予定**し、**民間パートナーの選定に向けた条件や連携範囲・手法等の検討について再整備計画に位置づけます**。

なお、動物の飼育状況によっては施設配置の計画を適宜見直すものとし、スケジュールについても今後、詳細設計や施工計画等により変更が生じる場合があります。

年度 / 項目	R6（2024）	R7（2025）	R8（2026）	R9（2027）	R10（2028）	R11（2029）	R12（2030）
事務的スケジュール	再整備計画 骨子案	市民意見の募集 / 再整備計画 策定	公募・選定等 / 引継ぎ	民間パートナーとの協働開始			
施設整備	先行整備		設計		整備		
関連スケジュール	秋 春 全国都市緑化かわさきフェア						
動物種数（自然減想定）	51種（R6.3月時点）					約46種	